

建校100周年紀念冊

1899 — 1999

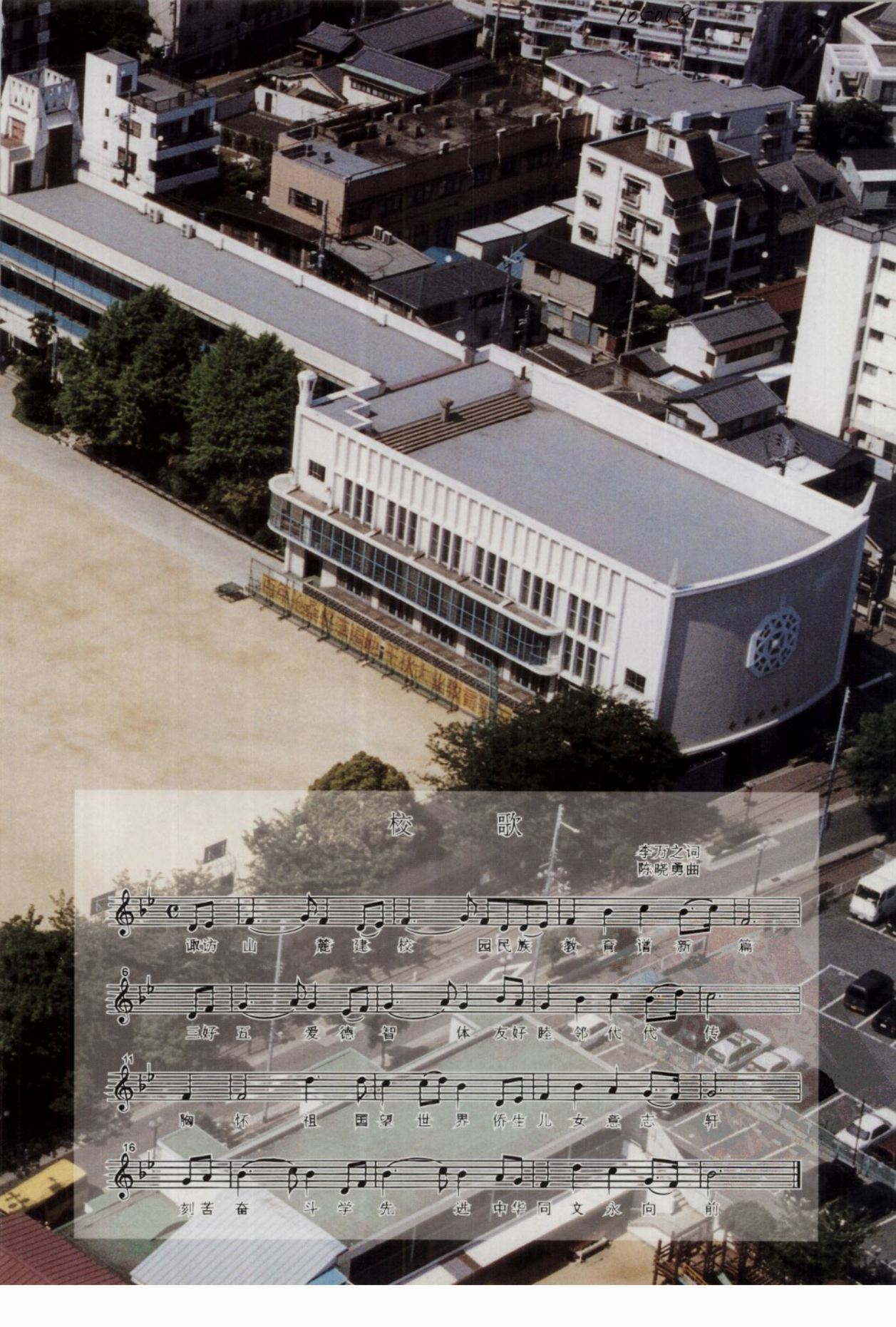
學校法人 神戸中華同文学校

建校100周年紀念冊

1899 — 1999







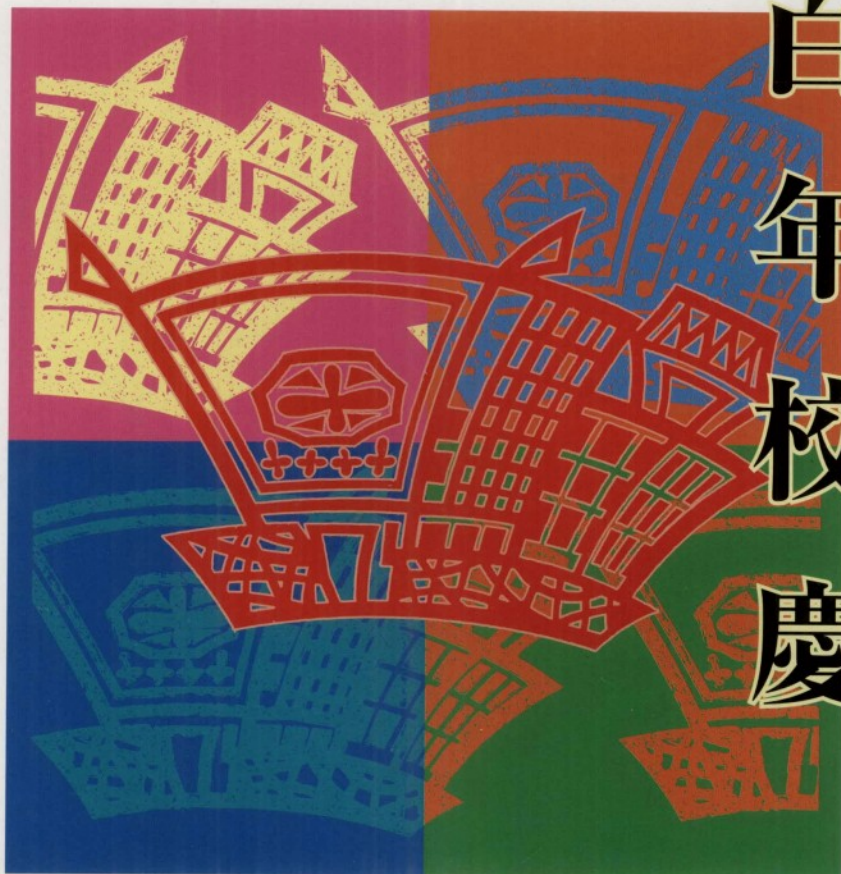
校 歌

李力之词
陈晓勇曲



1999

百年校慶



神戸中華同文学学校

創立100周年





学校校舍全景



校 旗



翁阿来奖盾

神戶僑校百年庆
以教興僑美名揚

錢其琛

一九九九年
一月十七日

傳播華夏文化
增進中日友好

江澤民

一九九九年
五月十九日

办好华侨学校
促進中日友好

李瑞琦

一九九九年十二月十七日

百年校慶
再創輝煌

中國社會院港澳辦公室 鄭永坡

七九年春



中 华 人 民 共 和 国 外 交 部

日本神户中华同文学校：

值此日本神户中华同文学校百年华诞之际，我谨向贵校表示热烈的祝贺，同时对贵校百年来为弘扬中华文化和促进中日两国人民友好交流所做的努力深表钦佩。衷心祝愿贵校今后继续发扬优良传统，在治校育人方面取得更大成绩，为新世纪发展中日两国友好关系做出新的贡献。



中 华 人 民 共 和 国 总 领 事 馆

神户中华同文学校百年校庆庆祝委员会
委员长 黄耀庭 先生

值此神户中华同文学校迎来百年校庆之际，我谨代表中华人民共和国驻札幌总领事馆向您表示衷心的祝贺。

三十年前，我曾拜访过贵校，全校师生高昂而充满的爱国热情，团结奋进、艰苦奋斗的精神面貌和严谨的治学作风，给我留下了终生难忘的美好印象。至今，贵校在兴旺发展中迎来百年华诞，值得同庆同贺。

爱国侨胞的教育事业是永存的。祝愿神户中华同文学校永葆青春，在新世纪与伟大的祖国共进！

中华人民共和国外交部

部长

唐家璇

一九九九年五月二十七日

中华人民共和国
驻札幌总领事

王泰平 敬贺

一九九九年五月二十日



祝神户中华同文学校
百年校庆

百年樹人

功在千秋

一九九九年五月二十八日

余煥春賀
元媛諾獨協大學教授
中國語學科長



学校法人 神戸中華同文学校 建校100周年紀念冊

目 次

学校全景・校旗・题词・贺电・宣传画图案	2
---------------------------	---

第一章 祝词

祝词	神戸中華同文学校理事長 神戸中華同文学校百年校庆 庆祝委员会委员长	黄耀庭	11
百年校庆感慨多	校长	文启东	13
祝辞	家長会会長	莊天輝	15
100周年の記念行事を通しての校友会活動	校友会会長	盧国威	18
祝辞	兵庫県知事	貝原俊民	18
神戸中華同文学校百周年記念誌への寄稿	神戸市市長	笹山幸俊	19
百年校庆有感	中华人民共和国驻大阪总领事馆总领事	刘毅	20
贺词	中华全国台湾同胞联谊会	杨国庆	21
难忘中华同文学校	归国华侨联合会副会长	林丽韞	22
热烈祝贺母校百年华诞	中日友好协会副会长	黄世明	23
創立百周年を回顧して	名誉理事長	林同春	24
我和神戸中華同文学校	名誉校长	李万之	26
神戸中華同文学校創立百周年に寄せて	顧問	陳舜臣	31
神戸中華同文学校創立百周年に寄せて	顧問	王柏林	32

第二章 照片集

创办合并时期	34
战争动乱时期	45
艰难复校时期	51
茁壮成长时期	72
团结发展时期	87

第三章 纪念文集

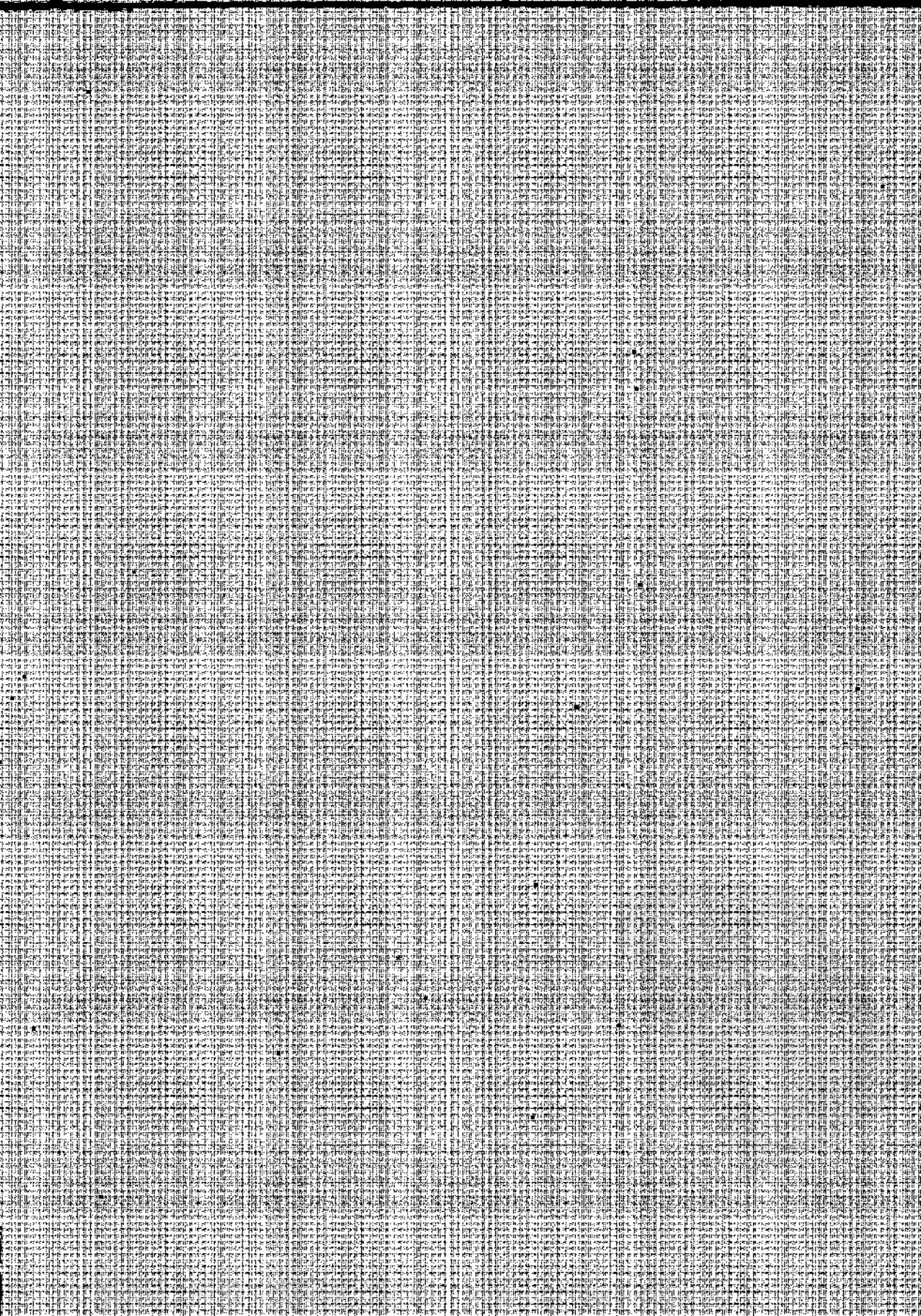
翁阿来先生生平介绍	李万之	121
一个合并第2届毕业生的回忆	鲍垣	124
建校回顾——1957年前后	王柏群	127
百年校庆有感——纪念校工翁阿来先生	李平凡	130
中国の食文化の伝承、伝播と創造的發展	林愛梅	131
学校校舍建設の思い出	馬文璧	135
我的母校和宿舍生活	江丽华	136
神戸中華同文学校——我心魂的故乡 母校与我的祖国情	蔡胜义	138
創立百周年への思い	莊芝蘭	142
私の座標軸	李義昭	143
母校的回忆	倪瑞良	145
現在の仕事と母校とのかかわり	李進彰	146
自分の中のChinese	黃錦成	147
第幾届?	湛沛綸	149
神戸中華同文学校に関する一考察	鮑智行	150
《展望21世紀》	徐榮哲	151
「大切なことは目に見えない」	金純	152
[YOU ARE THE SPECIAL PEOPLE IN THIS WORLD]	李淑美	153
中華同文学校での思い出と卒業してからの自分	李宏才	154

第四章 校庆活动照片集 1999年1月1日—1999年12月31日	156
-----------------------------------	-----

第五章 对外交流(年表)	167
--------------	-----

第六章 資料	171
--------	-----

编辑后记	176
------	-----



祝 辞



神戸中華同文学校理事長
神戸中華同文学校百年校庆
庆祝委员会委员长

黄耀庭

今年神戸中華同文学校迎来了建校一百周年，年初开始，各种形式的庆祝活动接踵而至，特别是五月二十八日的庆典活动，得到祖国政府、兵库县、神戸市各界人士的友好祝愿，典礼在盛大庄严的气氛中圆满结束，请允许我代表百年校庆庆祝委员会向各位表示由衷的感谢。

神戸中華同文学校自建校以来，已经历了一百年，创业的艰辛，路途的坎坷，数不尽的艰难险阻，一直延续到今天，谈何容易！回首百年的历史，真是浮想联翩，感慨万千。

一百年前，戊戌变法倡导者之一梁启超先生，当时只有二十七岁，来日本首先提倡要重视教育，认为“人才为政事之本，而学校尤人才之本”，认为学校才是文明进化之源泉。当时神戸的华侨，身处异国他乡，虽欲求不高，只图温饱，但当时正处清代末期，政治腐败，民不聊生，帝国列强侵占蹂躏，内忧外患，迫使中华民族频于灭亡之绝境。何以救国？何以救我民族？侨胞对祖国的关怀和爱与日俱增，在这种情况下，大家对教育的意义开始有所认识，欲想挽救中国，必须从普及教育做起，培养人才，振兴中华。当听到梁启超先生号召后，他们立即响应，筹款建校，不久，在东亚路畔建成了「神戸华侨同文学校」，学生人数一百三十人。后来，神戸地区又连续出现「神戸华强学校」、「中华公学」两所华侨自己办的学校。

这段时期，随着战争的深入，日本政府对内加紧控制，华侨的机构和组织也受到干扰。三所学校经历了合并、分开、停课、复课，直至

1939年，学校的名字才正式定为「神戸中華同文学校」。1945年美军对神戸的大空袭，学校的一切设施均化为灰烬，学校只好临时停办，几经周折，半年后又正式复课。但是校舍始终是个问题。1958年，神戸华侨提出“有钱出钱，有力出力”的口号，决心建一所华侨自己的学校。在这口号的感召下，一个个激动人心的场面出现了，华侨全体，不分老幼，齐心协力，团结一致献上自己的爱心和血汗。就在这一年的九月十八日，一所崭新的学校巍然挺立在幽静的諏访山麓。华侨学生有了自己的校园，华侨的夙愿实现了。

一百年来，学校经历了无数的天灾人祸，忍受了数不尽的刀剑风霜，培养出五千余名毕业生，活跃于中日两国各个领域，为社会做出重要贡献。学校之所以能有今天，均有赖于广大侨胞与各地华侨团体的大力支持与协助，无论从经济上还是精神上，都给予学校无比的温暖和力量，这些变成学校跨越困难的动力和源泉。可以说：没有广大侨胞就没有神戸中華同文学校。在此，让我代表学校向全体侨胞表示万分的感谢！

多年来，以国务院侨办为代表的祖国各界十分关心华侨事业的兴衰，关心华侨教育，从多方面支持我们，特别是阪神淡路大地震以来，我们无时无刻都感受到祖国的关怀，强大的祖国是我们的后盾，我们衷心祝愿伟大祖国繁荣昌盛！

一百年来，学校的教育，也得到日本各界友好人士及日本广大人民的理解和支持，祝

愿中日友谊之树万古长青！

今天学校的发展，是和历代老师们的兢兢业业、诲人不倦、燃烧自己、照亮别人的精神分不开的，我们永远不能忘记这些勤劳的耕耘者！

二十一世纪已经向我们走来，展望新世纪，我们更须努力为弘扬中华文化，为光大民族精神，为美好的明天，诚挚期望各位继续给予

大力协助。

我本人有幸在任理事长期间，亲自参与并主持九十周年、一百周年纪念典礼，这给我的人生增添了绚丽的色彩，使我深感荣幸。这一切的成功和荣誉都是和华侨的大力支持、热心关怀分不开的。请允许我再一次对关怀、爱护华侨教育的各位表示感谢。





百周年校庆感慨多

校长 文 启 东

一九九九年是祖国建国五十周年，又是澳门回归祖国之年。在这值得纪念的一年，恰逢神户中华同文学校百周年校庆，这偶然的巧合使百年校庆更添辉煌。做为神户一华侨，倍感荣耀之至。

今年五月二十八日于神户文化厅举行了盛大的建校百周年纪念典礼，承蒙以祖国国务院侨务办公室副主任刘泽彭先生为首的祖国各位来宾、日本兵库县政府、神户市政府的领导、日本各界人士、全日本的侨领、侨胞、校友出席，各位在百忙中莅临典礼使典礼增色生辉。使典礼在隆重和谐的气氛下圆满结束了。我能够以校长的身分，与黄耀庭理事长为首的理事、评议员、学校教职员、校友会等参与、主持并顺利完成了这重大的典礼，实在感到无比的荣幸。借此机会向各位表示衷心的感谢。

一百年前，神户已有将近两千人的华侨居住，当时他们已认识到对子弟教育的重要性，需要把祖国的语言、文化等传给子孙。在这种情况下，一八九九年五月二十八日梁启超先生来神，于中华会馆的欢迎会上，在讲演中提倡办校。这时以麦少彭先生为核心，立即响应梁先生的倡导，华侨老一辈有钱出钱有力出力，神户侨校应运而生。次年，一九〇〇年三月一日在东亚路畔，头一所侨校「神户华侨同文学校」的校舍竣工。此时聘请了日本著名政治家犬养毅先生为名誉校长，隆重举行了竣工典礼及开学典礼。（当时大阪朝日新闻登载）后来，在神户地区先后创办了「神户华强

学校」、「中华公学」两所学校。三所学校经历了合并、再合并，于一九三九年才统一为「神户中华同文学校」。

众所周知，二十世纪的亚洲风云变幻，特别是中国，经历了清朝的灭亡、中华民国的成立、九一八事变、七七事变、中日全面战争、国共内战、中华人民共和国的成立、文化大革命等等，是风起云涌的一百年。在这狂风巨浪中，学校也无形之中受到政治上、经济上的各种各样的影响，百年的沧桑，老一辈华侨历经了许多磨难、艰苦和辛酸。但是我们的老一辈华侨不分老幼，齐心协力，任劳任怨，团结合作、克服一切困难，一直坚持到今天。他们的这种为弘扬中华民族文化，大公无私、不怕牺牲、热爱侨校的崇高精神是令我们后代钦佩，并值得我们学习的。

「十年树木，百年树人」。战前战后一百年，我校培养出5000多名初中毕业生。他们都具有较强的民族自尊、中国人的自立和自强，继承和发扬中华同文优良的传统作风，在祖国、在日本的高中、大学或社会努力学习和工作，受到祖国、日本友人的爱戴和尊敬。他们直接、间接地为中日友好架起桥梁，为祖国建设做出贡献，给旅日华侨增添无限光彩，为母校带来莫大荣誉。这是我校引以为自豪的成果。面临二十一世纪的到来，时代潮流滚滚向前，我们应该坚持基本教育方针，继承好传统，继续努力奋斗，不辜负广大华侨对我们的期望。

庆祝委员会为举办百周年校庆活动，收到了祖国以及神户华侨企业、家长会、神户侨

胞、校友以及全国侨团的捐款，共八千多万日元。我们把这笔捐款利用在添设电脑教室等充实学校设施上面，为学生创造良好的学习环境。大家都知道，现在日本经济正处在低迷时期，世界经济也不是很乐观的，在这种情况下，我们可以收到这样一笔巨款，这是多么令人感动的一件事。这证明了各界人士对我们学校的厚爱和期望。借此机会向大力支援我校的各地侨胞致以诚挚的感谢。

中国有「前人栽树后人乘凉」之说法，前人为教育事业呕心沥血，给我们留下了神户

中华同文学校这一宝贵的文化财产，我们有幸继承这难能可贵的财产，我们更有责任和义务使之发扬光大，为子孙万代造福，我们将义不容辞。

二十一世纪正向我们招手，新世纪要求我们必须继续充实和研究教育教学内容。必须跟上时代的步伐，任重而道远。为了创造更辉煌的未来，我们将竭尽全力努力奋斗。我希望全神户华侨齐心协力，携手并进，为中华同文学校的发展，为民族教育的繁衍，今后继续给予大力支援和热情指导。



祝 辞



家長会会長 莊 天 輝

輝かしい伝統に育った神戸中華同文学校の創立百周年を皆様と共に迎えることができましたことは誠に喜びに堪えません。あらためて百年という歳月、先輩達の思い、そして、伝統の重さをひしひしと感じております。

本校は創立以来、多くの華僑のみなさんと、日本の友人の皆様の御理解と御支援のもと、この神戸の地にめざましい発展を遂げて参りました。そして先人達の教育に対する熱意を脈々と今日まで受け継ぎ、時代を見つめた教育を華僑社会の変化にそくして行ってきました。それはとりもなおさず、地域社会に愛され、貢献し、そして祖国、世界へとめざす教育、まさに国際化そのものであります。そして、卒業生は世界の各地に散らばって、それぞれの場で活躍しております。

しかし、華僑学校としてここにいたった道のりは決して平坦なものではございません。数多くの試練の場もあり、時代の荒波をかぶりつつ、時代と共に「力のあるものは力を、財のあるものは財を、そして知恵のあるものは知恵を」の団結のもと無事きょうに至ったわけであります。

今日、私共の子供達がこのように民族教育を受けることが出来ますのも、ひとえに先人の皆様、関係者の方々、卒業生の皆様、地元の皆様、それに歴代の校長先生をはじめとする教職員の方々、そして本校を応援して下さったすべての皆様のお陰であります。

今、学校をとりまく日本社会の教育環境

はみなさんも御存じのとおり、不登校やいじめ、そして低学年における学級崩壊等いろいろな問題が噴き出しております。戦後50年、日本経済の発展とともに、生活環境の変化が人々の倫理観をはじめ、精神面で急激な変化をもたらしました。われわれ華僑社会においても2世、3世が中心になった現在、1世のみなさんがもちつづけた華僑精神は薄れつつあり、そして華僑社会における国際結婚の増加がそれに拍車をかけ、若い世代の人達は日本社会にますます同化していくことは避けられません。

多様化した華僑社会において、華僑、華人子弟の教育を担う本校が、華僑社会におよぼす影響はますます大きな重みをもってまいりますし、華僑社会の核に成ることは時代の流れであります。

21世紀にむけて本校が華僑社会はいうにおよばず、日本社会においても価値ある学校として存在しつづけていくためにも、先人達の教育の原点にたちもどり、伝統の中から未来をさぐり、華僑学校として今後も世の中の激動に流されない本校独自の信念を貫き通して頂きたいものであります。

家長会も家族的雰囲気을大事にし、時代にそくした本校のさらなる良き教育環境のために学校関係者、教師のみなさんと共に力を合わせて努力してまいらる所存であります。

百周年を迎えた神戸中華同文学校がさらなる発展をし、祖国に、地域社会に貢献出来ることを祈り、祝辞とさせていただきます。



100周年の記念行事を 通しての校友会活動

校友会会長 盧 国 威

神戸中華同文学校創立100周年、この記念すべき輝かしい年に会長に就任している私は誠に光栄の至りであります。全校友生を代表して“おめでとう”と母校に向け、心よりお祝い申し上げます。と同時にこの100年の歴史と伝統の重みを双肩に、いや全身にひひひしと感じている次第であります。

1946年神戸中華同文学校復校から、今年の1999年3月までに、校友生は卒業生及び一時在籍者を含め約5000名近くに達し、中国、日本は言うに及ばず世界各地において、それぞれの分野で目覚ましい活躍をされています。母校が今日このように発展し、確固たる地位を築くことが出来たのも、華僑諸先輩方の「有錢出錢、有力出力」と「為公無私」の精神があったからこそだと思います。私たちも諸先輩方の精神を鑑として、今後も頑張って参りたいと思います。

現在校友生は、旧華僑の割合が減り、日本国籍を取得した華人、新華僑などの割合が増えているようです。国際化が叫ばれている昨今、母校の存在価値がますます重要視されていくものと思います。

創立時の生みの苦しみもさることながら、長く続けていく事は更に容易ではないと思います。これから先120周年、150周年を迎えられる様な立派な学校に育っていくことを期待し、私たち校友生も何をすべきかを真剣に考え、全力で応援して行きたいと思えます。

さて、100周年を迎え記念行事を行うにあたり、校友会の企画担当行事として、記念式典前日の“祝賀晩会”と夏の“納涼聯歡晩会”、そして最後のイベント99年大晦日“2000年へのカウントダウンパーティ”の三つに取り組みました。

“祝賀晩会”の企画を校友会に任された時、まず考えましたのは、どの様にして人を沢山集めるかということでした。色々検討し考えた結果、思いついたのが“各届”による“合同大同窓会”を開催することでした。復校前第1届生より今年卒業した第54届生までの幹事約100名が集まり、同窓会の合同開催に向けて一生懸命努力しました。特筆したいことは、卒業して間もない高校生達のがんばりでした。幹事スタッフ皆様の努力のおかげで、世界中から百周年を祝う校友生の申し込みが殺到し、祝賀晩会の一ヶ月前には満席となり、全ての方々に参加して頂けなかった事は今でも心残りであります。当日は、招待客を含め1100余名が参加し、神仙閣開業以来の全館貸し切り、満員御礼の大盛会になりました。この祝賀会を通して、上は70代、下は10代の幅広い校友生が一堂に会し、母校での思い出話に花を咲かせ、親睦を図り、先輩、後輩わけへだてなく母校の百周年を祝えたことは大きな収穫でした。その夜、別れを惜しむ校友生たちの群れが三宮、元町にあふれていました。

“納涼聯歡晩会”の企画は、私の夢でした。